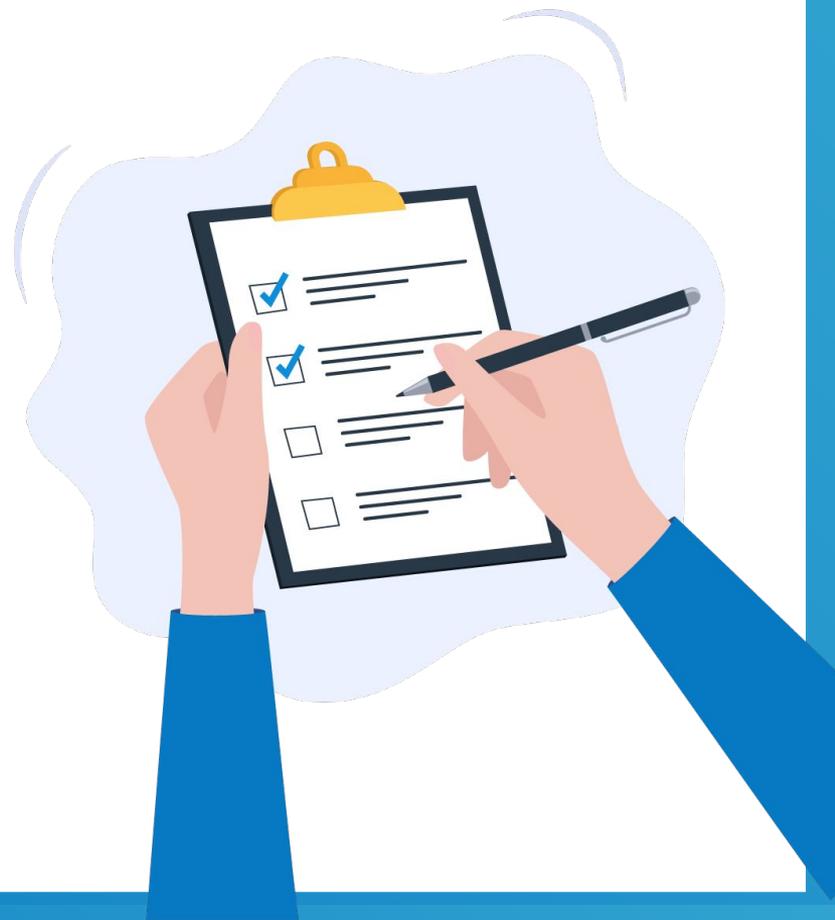


アプリリニューアルにおける チェックリスト & 解決方法

アプリ開発会社のプロが作成



このホワイトペーパーの目的

アプリ担当者の方からよく聞くお悩みがあります。

- 自社のアプリに課題を感じている
- アプリを競合と差別化したい
- アプリをもっと活用したい、成長させたい
- アプリのリニューアルはよく聞くけど、タイミングがわからない
- 課題があるかわからないのでチェックしたい

そんな悩みを持つ方に向けて、

アプリ開発会社の観点から、アプリリニューアルのチェックリストを作りました

よくある課題や解決方法、実際のリニューアルの手順や流れ、評価基準の設定方法、費用を抑える方法や短期間での開発方法などをまとめました。

この資料がアプリ担当者の方にとって、少しでもご参考になれば幸いです。

POINT
01

担当者が気づいていない
リニューアルすべき状況・判断基準

POINT
02

アプリリニューアル時に
よくある課題と解決方法

POINT
03

アプリリニューアルの流れ

POINT
04

リニューアル後の期待効果や
評価基準の設定方法

POINT
05

費用を抑えてリニューアルする方法

POINT
06

短期間でリニューアルする方法

POINT
07

ModuleApps 2.0なら



①テクニカル観点

- 実装したい機能が実装できない
 - ・ 対向システムの刷新や新しいシステムの導入に合わせて実装ができない
 - ・ 技術力のハードル（実装実績がない、経験が少ない）
- 改修要望を出してもリソースの確保がクイックにできない
- 改修を実施する費用が高額
- 改修を実施するスケジュールが長く、細かなアップデートができない
- リリースした後のサポートが弱い
- セキュリティ上の懸念がある

テクニカル観点の課題が**もし1件でも当てはまる場合**、担当ベンダー様へ解決策を相談することをおすすめいたします。解決できず、貴社にて重視しているポイントが解決できない場合、他アプリベンダー様への相談もご検討ください

②グロースの観点

- 分析ができない・分析ツールとの連携が困難
 - ・ノーコードツールなどでの開発の場合、ツールの連携が限られているケースがあります
- MAUが伸びていない
- デザイン変更や機能拡張に際して、アプリベンダーに相談ができない
- 自社にアプリ運用の知見があるメンバーがおらず、どのようにグロースさせるかわからない
- ベンダーからアプリをグロースさせるような提案がない
 - ・UXを高めるようなアプリの機能提案がない
 - ・アプリに関連するマーケティング・テクニカルツールなどの提案がないなど

こちらも**1つでのチェックがあてはまるようであれば**、現状のアプリベンダー様に解決できるか否かを相談しましょう。

場合によっては、他ツールを導入しアプリと連携すれば解決できるケースもございます。

ただし、アプリ自体が拡張性がなく新ツールの導入ができないケースもあるので、出来ていない理由をしっかりと把握し対処することが重要です。

もしご不明な点があれば、アプリ開発及び分析ツールを取り扱っている弊社DearOneへも[お気軽にご相談ください](#)ませ。

Q 予算がない（来年度以降になる等）・社内調整が困難

- A
- ・想定ROI（投資利益率）を作成し社内で上申し、予算を確保する
 - ・コストを削減する方法を探す（段階的なりニューアルなど）

Q 会員情報の引継ぎに懸念がある

- A
- ・今の会員基盤を残すかリプレイスするかをまず検討する
 - ・残す場合は、どのように引き継げるかの整理をおこなう
 - ・リプレイスする場合は、新しい会員基盤にどのように移行をするかを整理する
 - ・この整理を手伝ってくれるアプリベンダーと会話をすることもおすすめ

Q スムーズなアプリの移行の案内に懸念がある

- A
- ・現アプリから新アプリにアップデートするようディベロッパーアカウントで設定を実施し、現アプリでリニューアルの通知を計画的に実施する
 - ・これをサポートできるアプリベンダーと会話をする

アプリリニューアル時によくある課題と解決方法

Q CRMとアプリをセットのパッケージで開発してしまった

※補足1: 多くの場合SaaSの一部としてCRMの機能があるので、CRMに対し個社ごとの対応ができない
(例: 期間限定ポイントの機能がほしいが機能として存在しない、個社ごとの会員情報カラムを作れないなど)

※補足2: 加えてリプレースする際に会員情報を外に出せないなど、ベンダーロックインのリスクがあります

A

- ・ CRMとアプリをモジュール化し、それぞれ独立して開発・運用できるように変更するなど
また、API連携でデータ同期することで他のシステムとの互換性も向上します
- ・ オープンソースのツールやプラットフォームの活用で特定のベンダーに依存しないシステムを構築
→将来的なシステム変更や他のツールとの統合が容易になります

Q リニューアルによるダウングレードは認められないが、 どうやって現状より良いアプリにすればよいかわからない

A

- ・ ユーザーからのフィードバックを収集する
- ・ 他社アプリとの比較調査を実施、自社アプリの状況を把握する
- ・ ダウングレードせず、更に魅力的なアプリにする能動的な提案ができるアプリベンダーと会話する

Q 課題がわからない (担当がわかっていない)

A

- ・ データ分析をおこなう
- ・ ユーザビリティテストをおこなう
- ・ 課題を浮き彫りにしてくれるアプリベンダーと会話をする
- ・ SlimilerWebやSmaRepoなどの分析ツールを活用する (詳しく知りたい場合は[お問い合わせ](#)ください)

Step

01

アプリベンダー問合せ+超概算見積もりの確保

いきなり！？と思うかもしれませんが、これをやらないことには、社内でどのくらい予算を確保すべきか判断できない為です。

Step

02

社内決裁取得、予算確保

概算見積もりをもとに、プロジェクトの承認と必要な予算を社内で確保します。

Step

03

提案依頼書（RFP）の作成、展開

詳細な要件をまとめた提案依頼書（RFP）を作成し、複数のベンダーに展開します。

Step

04

コンペ、ベンダー選定

提案や見積もりをいただき、社内で最適なベンダーを選定します。

Step

05

要件定義

ベンダーがユーザーニーズやビジネス上の要件を具体的に定義して、プロジェクトの範囲を確定します。

アプリリニューアルの流れ

Step

06

設計

ベンダーが上記の要件に基づき、アプリの詳細な設計を行います。

Step

07

開発

この段階で並行して、社内関係者説明をおこなうことをおすすめします！

Step

08

テスト

アプリの内容や品質を確認するため、ベンダーがテストを実施します。

Step

09

受け入れテスト (UAT)

依頼主が実際にアプリを使用し、機能や操作性を確認します。その後、審査UPの許可を出します。

Step

10

アプリ審査 (Apple / Google)

アプリストアで公開する場合、AppleやGoogleの審査を受ける必要があります。

Step

11

リリース！

アプリのリリースはゴールではなく、新たなスタートであり、リリース後こそが本番といえます。分析を行い、保守・運用を通じて継続的にアプリを改善していきましょう。

リニューアル後の期待効果や評価基準の設定方法

MAU数の向上

期待効果:

ユーザーエンゲージメントの強化によるアクティブユーザー数の増加

評価基準:

月間アクティブユーザー数（MAU）の前年比較など

MAU率の向上

期待効果:

定着率の向上によるユーザーの継続利用

評価基準:

月間アクティブユーザー率（MAU率）の改善率など

DL数

期待効果:

新規ユーザーの増加によるアプリの普及

評価基準:

アプリのダウンロード数の月別成長率など

会員数

期待効果:

利用者ベースの拡大

評価基準:

総会員数の増加数など

売上

期待効果:

アプリ利用による売上の増加

評価基準:

月間売上額の前年比較など

アプリからの会員登録数やCV率の向上

期待効果:

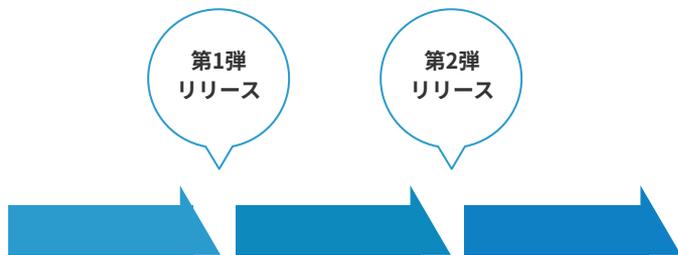
アプリ経由での会員登録およびコンバージョンの増加

評価基準:

会員登録数とコンバージョン率（CV率）の月間増加率など

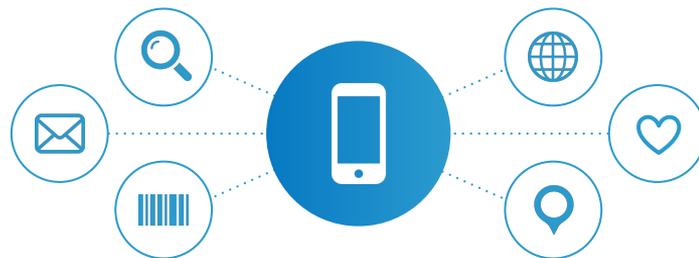
01 フェーズ分けをして まずは限定した機能でリリース

すべての機能を一度に開発するのではなく、優先度の高い機能をまずリリースし、段階的に拡張していく方法があります。初期費用を抑えつつも、早期にユーザーのフィードバックや分析データを得ることにもつながります。



02 フルスクラッチではなく パッケージサービスを選定

必要な機能を洗い出し、フルスクラッチである必要がなければパッケージサービスの活用で、開発コストと時間を大幅に削減可能です。カスタマイズが必要な場合であっても、フルスクラッチと比べてコストを抑えることが可能です。



01 フェーズ分けをして まずは限定した機能でリリース

優先度の高い機能をまずリリースし、段階的に追加しましょう。これにより、短期間でリリース+分析や改善が可能となります。

02 フルスクラッチではなく パッケージサービスを選定

パッケージサービスの活用で、費用だけでなく開発期間も大幅に短縮可能です。

03 パッケージでも拡張性がある ベンダーを選定

初期リリース後の機能追加やカスタマイズがしやすいパッケージを選定することも大切。
短期のみならず長期的な開発スケジュールにも柔軟に対応できます。

04 豊富な知見がある専門の担当者へ相談し、 機能の取舍選択をしっかりとる

本当に必要な機能を見極め、不要な機能を削減しましょう。寄り添ってくれるアプリベンダーに相談するのもおすすめです。

様々な機能が標準搭載、すぐに実装できます

アプリ開発において、
当たり前に使いたい機能を使いこなすことは
非常に重要です。

ModuleApps 2.0では最適化された30を超える様々
な定番の機能が揃っているため、ゼロから作るより
も圧倒的に低価格で、さらに短納期で開発できる仕
組みになっています。

定番機能からミニマムスタートし、利用されるお客
様に合わせて機能追加していくことも可能です。



プッシュ通知



プッシュレビュー



クーポン



バナー広告



店舗検索



店舗情報



経路検索



お気に入り店舗



会員管理



コンテンツ配信



イントロ



電子チャシ



アプリ内ブラウザ



バーコード機能



店舗別コンテンツ配信



フローティング広告



One to Oneコンテンツ



One to Oneクーポン



アプリ内メッセージ



ARメジャー



アプリ行動分析



シナリオ



QRコードリーダー



スタンプカード

アプリグロースのプロフェッショナルチームと成長に呼応する柔軟な拡張性

アプリはリリースしてからがとても大切。

多種多様なアプリを開発・運用してきたプロが二人三脚でご支援いたします。

定番の機能はパッケージで安価に実装し、個別のカスタマイズや実現したいことはしっかりとした開発体制でお応えします。

1から要件定義をおこない、こだわりの機能追加や各種ツール・システム連携など、お客様に合わせオーダーメイドのカスタマイズをいたします。

カスタマイズ実績例

- ・自社Payの開発
 - ・スマホでルームキー
 - ・施設内のルート検索
- など、多数のカスタマイズ実績があります



搭載・連携実績のあるツール



※2024年7月実績

1億ダウンロード突破の豊富な実績

数多くの企業様の公式アプリを開発・運用し、手がけたアプリの累計ダウンロード数は1億を突破しました。

各業界のリーディングカンパニーが抱える数百万規模のアプリ顧客基盤への一斉情報配信もスムーズに実施。

また、NTTドコモグループのセキュリティ基準に準拠した高信頼のサーバーシステムを使用しており、継続的なセキュリティレベルの向上に努めています。



※2024年7月実績

ありがとうございました

ModuleApps 2.0

▼お問い合わせは[こちら](#)



ModuleApps